元気っ子　Ｎｏ334 ながさわ保育園

園　長　　中　瀬　弦　偉

先月は「発達の順序」のお話をさせて頂きました。就学前の乳幼児期に遂げなくてはいけない発達は、学習環境に向けての準備であって、必要な発達を飛び越えて、学習部分を先取りすることではないことがお分かり頂けたのではないでしょうか。

このことは、国際的にも十分理解が浸透しており、日本においては、「保育所保育指針」と「学習指導要領」に明確に示されています。例えば、先月も書かせて頂きました保育所保育指針の「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（10 の姿）」の「数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚」には以下のように書かれています。

「遊びや生活の中で、数量や図形、標識や文字などに親しむ経験を重ねたり、標識や文字の役割に気付いたりし、自らの必要感に基づきこれらを活用し、興味や関心、感覚をもつようになる」

ここからも分かるように、「〇〇できるようにする」のではなく、自らが意欲的に環境に働きかけ、遊びや生活に取り組む中で、興味、関心、感覚をもつようになることが乳幼児期に育っておいてほしい姿になります。

それに対して、「学習指導要領」小学校 1 年生の算数の目標には以下のように書かれています。

「具体物を用いた活動などを通して、数についての感覚を豊かにする。数の意味や表し方について理解できるようにするとともに、加法及び減法の意味について理解し、それらの計算の仕方を考え、用いることができるようにする。」

乳幼児期に遊びや生活の環境を通して興味、関心、感覚をもつようになることに対して、小学校では「理解できるようにする」「用いることができるようにする」とあります。これが乳幼児期の「経験カリキュラム」と小学校以降の「教科カリキュラム」の大きな違いになります。

つまり就学前の乳幼児期には、家庭でも保育園でも、子どもが意欲的に関わり、様々な経験をしながら内面を整えていく環境を用意することがいかに大切かお分かりになるかと思います。教科カリキュラムの前段階である乳幼児期にどれだけ経験カリキュラムを積み上げられるかを考えることが、子どもに必要な環境を考え、用意するということです。

今月から幼児クラスの環境が大きく変わりました。それぞれのゾーンが明確に区分けされ、やりたい遊びに夢中になれる環境が整いました。これらの環境を通して、様々な経験を積み重ねていって欲しいと思っています。しばらくは今の環境を子どもの動線や興味関心に合わせて微調整しながら、より良い環境設定を行っていこうと思います。

是非、ご家庭においても、教科カリキュラムの先取りをするのではなく、しっかりとその土台となる経験を育む環境を整え、大樹が育つための「根っこ」の部分が強く大きくなるように、お子さんと関わって頂けたらと思います。今月もどうぞ宜しくお願い致します。